市民・職員参加による後期基本計画の振り返りセッション「事前セッション」会議録

テ ー マ：１　連携型地域社会の形成
開催日時：平成 24 年 11 月 15 日（木）18 時～20 時 40 分
開催場所：松戸市民劇場第２・３会議室
出 席 者：市民の参加２２名、職員の参加８名

【会議内容】

■　オープニング

・今回の取り組みの背景や趣旨、全体像の確認

■　チェックイン

・「今の正直な気持ち」や「気になっていること」などの想いを共有

■　情報の共有

・松戸の強みと弱みを考えるデータ集に基づき、「基礎編」「政策編」を市の担当者より情報提供

■　感想・質問の共有

・取り組みの経過を知っている人は良いが、初めて来た人にはわかりにくい。
・連携型地域社会がどのようなものなのかがそもそも分からない。
・連携型地域社会の実現とデータ集の説明のつながりが分からない。
・職員の数が多いと思う。
・４８万人の個人と行政が連携していくことは難しく、団体やＮＰＯなどとの連携が現実的ではないか。
・具体的な連携モデルを紹介してもらいたい。
・参加しやすい仕組みが必要である。
・市民の相談を総合的に受けられる窓口が必要と考える。
・町会の加入率が下がっており、担い手を育成していくことが必要である。
・地域コミュニティがどのような取り組みをしているのかが分からない。
・新たなコミュニティというものが育っているのではないか。
・世代交流のできる場が欲しい。
・市職員の対応が冷めている気がする。
・地域の声を行政にぶつけることで、行政とのコミュニケーションが向上した。

■　経験の共有

・柏や総武線沿線市に比べて市民に対する支援が低い
・若者向けの就業支援活動が見えない
・苦情を言う人は町会などのどこの団体にも加入していない感じがする
・町会に加入していない人が増えている

・長く務めている町会長は活性化の意識がない、若い人は新しい事をしたいと思っている
・地域の担い手を育てることの必要性がある
・機能していない防犯組織がある
・人と人との希薄化により、わかっているようで近くの住民のことがわかっていない
・市内には多種多様なボランティアまたは予備軍の人が多くいる、町会と手を結んでいけたらと思う
・町の美化が必要であると感じている
・安全で安心なまちづくりが必要であり、防犯灯を整備して防犯力を上げている
・広報誌・ＨＰが流山市と比べて見にくい、ＨＰではなかなか知りたい情報までたどり着けない
・職員の窓口対応が悪い、質問しても答えられない
・民生委員として活動しているが個人情報や防犯の観点などからマンションがオートロックになっていて伺うことが困難になっているケースがある
・役所と市民（できる部分を行う）と一緒に参画して問題解決ができる仕組みがほしい
・職員の数が多い、給料を貰い過ぎ、民間企業で働く人を見て欲しい
・賃貸マンションや外国人は町会に入ってくれない
・生活保護受給者が増えている、高齢者だけではなく若者も同様である、早く手を打たねば国がもたない
・職員に問い合わせたところ、「それはＨＰに出ています」と言われた、すべての人がパソコンを使うわけではない
・町会に加入しないだけでなく、関わりたくないと思っている人がいる
・町会内に住んでいる人のことは把握していたつもりだが、個を重視した生活環境のせいか８４歳の人が一人暮らしをしていたのがわからなかった
・子育てのこととか松戸市はＰＲ不足だと思う
・住んでみたい街の県内ランキングで柏は２年連続１位である、松戸は１０位にも入っていない
・個人情報の保護が地域活動のネックになっている、行政の支援が必要
・市政協力委員はボランティアではない、金をもらっていると言われ苦しい立場に立つことがあった
・市政協力委員は市とのパイプ役で地域活動の責任者ではないという説明には抵抗がある
・計画停電の情報を地域の一人暮らしの人たちに伝えたら感謝された
・市民に要求ばかりして市は怠慢である
・職員が多いわりにスピード感がない
・市との協働事業（根本の壁面をアートボランティア）を行った体験から感じていることは、市に対して声を発信すること、申し込みが大事
・材料費は、役所で、人件費はボランティアで、町会は、差し入れを行ったが、白い壁に

なるより、良かったと喜ばれている
・平成 19 年度協働のまちづくり条例の策定に携わり、どうやって市民にわかりやすく知らせるか、年間 6 回イベントをやって、苦労した
・ボランティアの相談をすると社会福祉協議会にふられてしまう。ともに汗をかく協働に関して、職員の認識を高めることが必要
・企業人だった経験から連携することの重要性を身にしみて感じている
・町会は、ボランティア活動なので、戦略的に、独創的な活動になればいい
・公民館の活動で、団体で要望をとりまとめて出したら、取り上げてもらえ、行政と協力してより良い取り組みになった
・市政協力委員個人に報酬が支払われるのは、おかしいと感じている
・地域の活動は、連携できていて分断されているので、限界を感じ、東部地区で NPO を立ち上げて、地域の方々が毎日、気軽に立ち寄れる場所を作った。
・協働のまちづくり条例を知っているか
・常盤平のけやき通りは、落ち葉が多い。また、側溝の掃除をしていない。掃除が行き届いていない。
・外国人からの相談を受けるボランティアをしている。相談が解決するとうれしく思う。
・町会、自治会活動に無関心である人が 3 割くらいいるが、ほとんどがマンション住人である。行政の支援がないと、会費を払いたくないので、町会、自治会自体を作らない。
・協働事業として申請すれば予算が付くが、お金がなくても、市民でやっている活動はたくさんある。
・連携で大事なのは、情報共有と緊急時の情報伝達である。新聞の折込をやったらどうか。
・市として、市民と協働したい事業には何があるのか。
・行政に相談に来た市民に対して、たらい回しの対応でなく、もう少し真摯に市民の声に耳を傾けられないか。
・問い合わせを受けた課で最後まで回答することはできないか。銀行などはそうしている
・総合窓口はできないか。
・行政内部の連携ができていない。
・町会の会議開催に参加される方の年齢が高齢になってきており、特典が出ないと参加率が低い。
・学校のパトロールに若い方の参加が少ない。また、あまり義務化せずに気軽に参加できる体制でないと長続きしない。
・私自身が地域の事について知識が不足しているので勉強していきたい。
・市民自身が行政に頼りすぎているところがあると思うので、市民と行政のより良い距離間をもって進めていきたい。
・自分の持っている技術で市民活動の活性化に役立ててみたい。
・現役時代地域の状況について意識がなかったが、退職してみると若い人も松戸を何

とかしたい人たちがいるので、その人たちのためにも活動できる場所の提供をしてもらいたい。

・地域によっては、従来から住まれていて過去の歴史があるところと、移住されてきて新たに発展してきた地域があり、世代だけで区切るのは難しい。

・行政は市民の意見に耳を傾けてもらいたい。最初から排除しないでもらいたい。

・行政は実績がないものについては振り返ってもらえない。

・市民は自分で出来ることは自分自身で行った方が良い。

・市民活動がさめている。市民活動に参加しやすい仕組みがつくれると良いと思う。

○　クロージング

・振り返りセッションのご案内（開催日：平成 25 年 1 月 12 日(土)）

○　チェックアウト

・本日の感想などの共有

以上